

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

マダガスカル共和国月報（2018年8月）

主な出来事

【内政】

- 1 日、大統領選挙への立候補のための書類提出期間が開始。
- 1 日、ラジョリナ前暫定大統領が立候補を申請。
- 1 7 日、ラジャオナリマンピアニナ大統領の大統領選挙が立候補を申請。
- 1 8 日、ラヴァルマナナ元大統領が立候補を申請。
- 2 1 日までに、立候補者合計 4 6 名が立候補を申請。
- 2 2 日、2018 年大統領選挙の最終候補者 3 6 名が発表。
- 2 5 日、候補者番号にかかる抽選式典が開催。

【外政】

- 9 月に IMF 第 4 回拡大クレジットファシリティ・レビューが予定。

【経済】

- 7 月 3 0 日、アンバトビ社による地元還元金の支払い。
- 8 月 1 日、第 2 0 回農村経済国際フェアが開幕。
- 1 1 日、経済特区（ZES）に係る法案が採択。

【経済協力】

1 日本との関係

- 9 日、草の根資金協力「アンツィラナナ市ベタイチ小学校増設計画」引渡式を開催。
- 2 0 日、佐藤正久外務副大臣がマダガスカルを訪問。
- 2 2 日、平成 3 0 年度 ABE イニシアティブ壮行会を開催。
- 1 2 日、「マダガスカル南部干ばつ発生地域緊急人道支援・復興ジョイント・プロジェクト」引渡式を開催。

2 諸外国との関係

- 1 3 日、中国による「卵の道」着工式を開催。
- 1 6 日、中国による国道 5 号線の修復工事を開始。
- 1 7 日、中国による南部の井戸 2 0 0 か所の建設を開始。

【内政】

●大統領選挙への立候補のための書類提出期間の開始

1 日、大統領選挙への立候補のための書類提出期間が始まった。立候補する者は、1 日から 2 1 日までの期間に、最高憲法院（HCC）に書類を提出しなければならない。（2 日付当地各紙）

●ラジョリナ前暫定大統領が大統領選挙の最初の立候補者に

1 日午後、MAPAR 及び TGV（Tanora MalaGasy Vonona）党の設立者であるラジョリナ前暫定大統領は、TGV 党として HCC に書類を提出し、最初の立候補者となった。

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

同日、同前暫定大統領は、アンタナナリボ市内のマハマシナ競技場で支持者を集め、立候補の公式発表を行った。(2日付当地各紙)

●政治活動資金監視委員会の設置

1日、閣僚会議にて、新組織である政治活動資金監視委員会(CCFVP)のメンバー5名が任命された。8月7日より9か月間任務にあたり、同委員会の目的は、選挙活動資金の透明性の保障である。(2日付エクスプレス紙)

●エルナイヴ司法組合長の大統領選挙への出馬表明

1日、エルナイヴ(Ms. Fanirisoa ERNAIVO)司法組合(SMM)長は、自身の故郷アンバラヴォにおいて、ZAMA党から大統領選挙への出馬を表明した。(2日付当地各紙)

●ラヴェルナリヴ元首相がHCCに立候補の書類を提出

3日、ラヴェルナリヴ(M. Jean RAVELONARIVO)元首相は、HCCに大統領選挙の立候補のための書類を提出し、ラジョリナ前暫定大統領に次ぐ2番目の立候補者となった。(4日付当地各紙)

●TIM党のMAGRO社における集会開催

4日、ラヴァルマナナ元大統領支持者は、マハマシナ競技場での集会の延期を受け、アンタナナリボ市の同元大統領所有TIKグループ系列のMAGRO社において、集会を開催した。(6日付エクスプレス紙)

●ラジョリナ前暫定大統領のアナラマンガ県の町訪問

6日、アナラマンガ県アンジャマシナ郡の町アラチナイニ・バカルにおいて、ラジョリナ前暫定大統領は、大統領選挙に正式に立候補して初となる集会を開催し、成功を収めた。同地域は、ラヴァルマナナ元大統領とTIM党支持者が多いが、同集会には同郡の市長14名中8名が参加した。(7日付当地各紙)

●大統領選挙の最終結果は2019年1月9日

6日、独立国家選挙委員会(CENI)は、自身のホームページに、大統領選挙日程を掲載し、大統領選挙の最終結果は2019年1月9日に発表されることを明らかにした。(7日付エクスプレス紙及びシトワイヤン紙)

●郵便・通信・デジタル開発省におけるストライキの終了

6日、郵便・通信・デジタル開発省は、約2か月にわたる省内のストライキの終了を発表し、同省大臣と組合メンバーは、危機脱出に係る協定に署名した。(7日付ヌーベル紙及

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

びミディ紙)

●ラベアリス氏の大統領選挙への出馬の公式発表

7日、ラベアリス (Ms. Saraha RABEHARISOA) 氏は、アンタナナリボ市のホテルにおいて、PLD党から大統領選挙への出馬を公式発表した。同氏は、2013年大統領選挙では、緑の党から出馬し、4.52%の票を獲得し、候補者33名中6位であった。(8日付当地各紙)

●ランディ氏の大統領選挙への出馬表明

7日、ランディ (M. Andriamitosy LALANDY) 氏は、アンタナナリボ市のホテルにおいて、SFF党から大統領選挙への出馬を表明した。同氏は、産業工学エンジニアかつ原子核物理学者である。(8日付ミディ紙)

●マイオル牧師がHCCに立候補の書類を提出

8日、マイオル牧師 (Pasteur MAILHOL Christian Dieudonne) は、HCCに大統領選挙の立候補のための書類を提出し、3番目の立候補者となった。(9日付当地各紙)

●エルナイヴ司法組合長がHCCに立候補の書類を提出

8日、エルナイヴ司法組合 (SMM) 長は、HCCに大統領選挙の立候補のための書類を提出し、4番目で女性では最初の立候補者となった。(9日付当地各紙)

●ジュール元産業・民間セクター開発大臣、アーティスト・ダマ氏、ラバリイ元教育大臣がHCCに立候補の書類を提出

10日、ジュール (M. JULES Etienne Rolland) 元産業・民間セクター開発大臣、アーティスト・ダマ氏 (M. ZAFIMAHLEO Rasolofondraosolo, 別名M. MAHALEO Dama), ラバリイ (M. RABARY Andrianiana Paul) 元教育大臣が、各々HCCに大統領選挙の立候補のための書類を提出した。(11日付当地各紙)

●与党HVM党を支持するプラットフォーム「Voromahery」の設立

10日、アンタナナリボ市のホテルカールトンにおいて、与党HVM党を支持するプラットフォーム「Voromahery」設立に係るイベントが開催された。(11日付当地各紙)

●ラジョリナ前暫定大統領のアンチラベ訪問

11日、ラジョリナ前暫定大統領は、中央高地アンチラベ市を訪問し、多くの支持者を参集した。同前暫定大統領は、同市に道路建設のためのアスファルトを供与した。(13日付当地各紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

●政府の中立性に関するHCCの見解の発表

11日、HCCは、7月17日にンツァイ首相が提出した政府の中立性に係る憲法第39条の解釈に対する要求に応え、見解を発表した。HCCは、閣僚、政府職員は、選挙キャンペーンに参加することができない旨、明確に示した。(13日付当地各紙)

●北部アンツィラナナにおける与党HVM党の党大会開催

10日及び11日、北部アンツィラナナにおいて、与党HVM党の党大会が開催され、1万5千人の支持者が参集した。同大会において、同党事務局長にラティディ氏(M. RACHIDY Mohamed)が任命されたが、党首は空席のままである。(13日付当地各紙)

●マイオル牧師が式典を開催

11日、アンタナナリボ市において、マイオル牧師が集会を開催し、支持者が参集した。(14日付エクスプレス紙)

●ラジャオナリマンピアニナ大統領の南部アンジョイ訪問

12日、南部アンジョイ県アンブブンベにおいて、ラジャオナリマンピアニナ大統領は、国際青少年デーに係るイベントに出席した。同大統領は、同地区にある複数の落成式にも参加し、小笠原日本大使及びオナバンジョ国際連合人口基金(UNFPA)東南アフリカ地域事務局長が同席した。(13日付地域各紙)

●ラヴァルマナナ元大統領の東部マルアンツェチャ訪問

12日、ラヴァルマナナ元大統領は、FJKM(全国プロテスタント教会評議会)の集会に参加するため、東部アナランジルフ県マルアンツェチャを訪問した。(14日付エクスプレス紙及びミディ紙)

●MMM党がラジョリナ前暫定大統領の支持を表明

13日、アンタナナリボ市のホテルにおいて、MMM党は、ラジョリナ前暫定大統領及び同前暫定大統領の掲げるマダガスカル開発イニシアティブ(IEM)を支持する旨、表明した。(14日付当地各紙)

●HCCによる要求2件の無効判決

14日、HCCは、ラクトゥニアイナ・国家再建活動団体HFI代表によるラジョリナ前暫定大統領の糾弾要求、及びラベマナンツァ氏による2018年11月7日の大統領選挙の中止要求に対し、両者とも要求資格無しとして、無効を言い渡した。(16日付当地各紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

●国立司法官・書記官学校学長の更迭

14日、大統領閣議において、国立司法官・書記官学校（ENMG）学長が、学生の同校選抜入学試験における不正疑惑により更迭され、新しくラクテウアリス（M. RAKOTOARISOA Miadantsata Indriamanga）氏が新学長に任命された。（16日付当地各紙）

●ベルジキ元首相、ラクトゥフィリンガ氏がHCCに立候補の書類を提出

15日、ベルジキ（M. BERIZIKY Jean Omer）元首相がAntsika Madagasikara党から、ラクトゥフィリンガ氏がAJIAM党から、各々HCCに大統領選挙の立候補のための書類を提出し、8月1日の提出期間開始から立候補者12名となった。（16日付当地各紙）

●ラジョリナ前暫定大統領のアンチラベ訪問

16日、ラジョリナ前暫定大統領は、FLM（ルター派信徒）の宗教式典に参加するため、アンチラベを訪問し、牧師1,600名及びその家族等と面会した。（17日付ミディ紙）

●ラジョリナ前暫定大統領のアリヴニマモ訪問

17日、ラジョリナ前暫定大統領は、中央高地アリヴニマモを訪問し、多くの民衆を集めることに成功した。同地区訪問前、同前暫定大統領は、事前に集会の許可を得ていたが、ラクトゥヴァオ上院議長の圧力により、直前に許可の取り消しが行われた由。（18日付当地各紙）

●ラジャオナリマンピアニナ大統領の大統領選挙への出馬表明及び書類提出

17日、ラジャオナリマンピアニナ大統領は、アンタナナリボ市内のコルベール・ホテルにおいて、大統領選挙の立候補にかかるスピーチを行い、HCCに書類を提出した。同大統領は、HVM党から立候補し、14番目の立候補者となった。（18日付当地各紙）

●ロバンソン元保健大臣によるラジョリナ前暫定大統領の支持表明

17日、2013年大統領選挙に最終決戦まで残ったロバンソン元保健大臣は、ラジョリナ前暫定大統領及びマダガスカル開発イニシアティブ（IEM）への支持を表明した。（18日付ヌーベル紙）

●ラヴァルマナナ元大統領がHCCに立候補の書類を提出

18日、ラヴァルマナナ元大統領は、大統領選挙への立候補にかかる書類をHCCに提出した。（20日付当地各紙）

●ラヴァルマナナ元大統領のトアマシナ訪問

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

18日、ラヴァルマナナ元大統領は、東部トアマシナにおいて、TIM党15周年の締めくくりとなる集会を行い、多くの民衆を集めた。(20日付ミディ紙)

●ラジャオナリマンピアニナ大統領のアンタナナリボ大学における講演

18日、ラジャオナリマンピアニナ大統領は、アンタナナリボ大学において、「2030年マダガスカル開発計画(Fisandratana2030)」に係る講演を行った。(20日付当地各紙)

●立候補者合計46名がHCCに書類を提出

21日、HCCは、大統領選挙への立候補にかかる書類の受付を締切り、自身のホームページに、書類提出者46名のリストを掲載した。ディディエ・ラチラカ元大統領は、21日の最終日に書類を提出した。(22日付当地各紙)

●2018年大統領選挙の最終候補者36名

22日、HCCは、46名のうち、10名は立候補にかかる保証金支払い証明等、書類の不備があるとして無効とする決定を発表し、同日、36名を11月7日の第1回投票への出馬の有資格者として決定の上、最終候補者リストを発表した。(23日付当地各紙)

●HCCが大統領選挙に関する2つの要求を棄却

22日、13日にHCCに提出されたアンジアミトウシ氏によるラヴァルマナナ元大統領及びラジョリナ前暫定大統領の出馬資格の無効要求、16日に提出された複数政党による11月7日の選挙の無効要求は、HCCにより棄却された。(23日付ミディ紙)

●投票所を24,853か所に設置

大統領選挙候補者の公式発表の後、選挙準備としてマダガスカル全土に24,853か所の投票所の設置が発表された。(24日付ヌーベル紙)

●ローズウッド不正取引問題と大統領選挙

24日、アンタナナリボ市において、NGO団体Voahary Gasy (AVG) 及びトランスペアレンシー・インターナショナル(Transparency International)は、汚職・犯罪研究所(OCCRP)のローズウッド不正取引に関する報告書の発表を受け、ラヴァルマナナ元大統領、ラジョリナ前暫定大統領、ラジャオナリマンピアニナ大統領が森林破壊の破壊に関与しているとし、大統領選挙出馬資格の剥奪要求を主張した。(25日付当地各紙)

●緑の党とLiaraike党によるラジョリナ前暫定大統領の支持表明

24日、ジョーゼ緑の党党首及びカルタLiaraike党党首は、ラジョリナ前暫定大統領及びマダガスカル開発イニシアティブ(IEM)への支持を表明した。(25日付ヌーベル

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

紙)

●候補者番号にかかる抽選式典の開催

25日、独立国家選挙委員会(CENI)において、大統領選挙の最終候補者36名の候補者番号にかかる抽選式典が開催された。同式典に、ラジョリナ前暫定大統領、ラチラカ前観光大臣、ラマルスン元ルワンダ刑事裁判所判事等、複数の候補者が自ら抽選会場に赴き番号を引いた。ラジャオナリマンピアニナ大統領が12番、ラジョリナ前暫定大統領が13番、ラヴァルマナナ元大統領が25番となった。(27日付当地各紙)

●大統領候補者による政見放送の機会

27日から10月5日までの期間、マダガスカル国营放送(TVM)及びマダガスカル国营ラジオ(RNM)において、候補者による発言の機会が与えられるが、有料である由。(28日付ミディ紙)

●フォーブス誌によるマダガスカル10大富豪の発表

フォーブス誌は、2018年のマダガスカル人10大富豪を発表し、その中に、ラジョリナ前暫定大統領を支持するマミー・ラヴァトゥマンガ氏、ニナ・アンジアチトゥアイナ氏、ラヴァルマナナ元大統領がランキングされている。(28日付リーニュ・ドゥ・ミール紙)

●ラアリヌメナ新駐英大使の任命

29日、大統領閣議によって、新駐英大使にラアリヌメナ(M. RAHARINOMENA Bretino Andriniaina)氏が任命された。(30日付当地各紙)

●単一投票用紙の準備

29日、CENIの発表によると、南アにおいて単一投票用紙の見本が印刷されており、10月初旬には実際の投票用紙1,030万枚が印刷される予定である由。(30日付当地各紙)

《大統領選挙候補者の動き(8月後半)》

●ラジャオナリマンピアニナ大統領による各地訪問

ラジャオナリマンピアニナ大統領は、18日にアンタナナリボ大学で「2030年マダガスカル開発計画(Fisandratana2030)」にかかる講演会、20日に中部スヴィナンジアナ・イタシで病院の落成式、22日にアンタナナリボの病院の落成式、23日にアンブイヴァオの病院の落成式、24日にイヴァットのインフラ建設現場、25日にチルヌマンディィの治安対策式典、26日にベタフの宗教式典、27日にフィアナランツァの大学の講演及び

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

アンバラヴォのダムの修復工事の落成式、２８日にヌシベのインフラ落成式、２９日にアンバトランピの道路の検査所の落成式、３０日にマルアンツェナのインフラ落成式及びアンジラメナの軍隊設置式典に参加した。

●ラジョリナ前暫定大統領による各地訪問

ラジョリナ前暫定大統領は、１８－１９日に中部ミアリナリヴ郡アナラヴリ市、２０日に中部アンチラベ、ベタフ、マンジャカンジアナ、２２日に中部アリヴニマム郡イメリンチアトゥシカ、２６日にファンジアナツマディ、２７日にスヴァイナンジアナ、２８日にアシムンジャヌ郡とアヴァラジャヌ、３０日にアンバトランピ、アンブイバリ・サンバイナ、３１日にチルアヌマンディディを訪問した。(当地各紙)

●ラヴァルマナナ元大統領による各地訪問

ラヴァルマナナ元大統領は、１日に南西部マナカラ地域、１６日、トアマシナにおいてデジレ・ツアラアザナ・マダガスカル枢機卿と会談、１８日にトアマシナにおいてTIM党１５周年の式典を開催、２５日にマハマシナ競技場、３０日にスヴァイナンジアナ郡アンパリを訪問した。(当地各紙)

●ラチラカ前観光大臣による集会

ラチラカ前観光大臣は、１９日にアンタナナリボ市のスタジアムにおいて、大統領選挙立候補にかかる集会を行った。(２０日付ミディ紙)

【外政】

●SADC特使が９月に来訪予定

１８日、第３８回SADC首脳会合において、SADCは、マダガスカルの新内閣発足を称賛し、９月３日から７日まで、SADC特使をマダガスカルに派遣することを表明した。(２０日付マラザ紙)

●９月にIMF第４回拡大クレジットファシリティ・レビュー

２１日、マーク・ジェラード(M. Marc Gerard) IMF新当地代表と財務・予算大臣の会談において、９月中旬にIMF第４回拡大クレジットファシリティ・レビューが行われる旨発表された。(２２日付当地各紙)

●ベトナム新大使の信任状捧呈

２３日、ホオアン(SEM. Le Huy Hoang)ベトナム新大使は、大統領府において、ラジャオナリマンピアニナ大統領に信任状を捧呈した。(２４日付当地各紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

【経済】

●アンバトビ社による地元還元金の支払い

7月30日、アンバトビ社は、アロチャ・マングロ県とアチラナナ県の2県と20市に対し、2012年第4四半期から2018年第2四半期までの、地元還元金610億アリアリ（約1,500万ユーロ）を支払った。そのうち60%が20市に、30%が2県に、10%がトアマシナ州に還元される。（1日付当地各紙）

●第20回農村経済国際フェア（FIER MADA 2018）の開催

1日より、アンタナナリボ市において、第20回農村経済国際フェアが開催され、展示が400ブース、6万人の来客を見込んでいる。（2日付当地各紙）

●経済特区（ZES）に係る法案の採択

11日、最高憲法院（HCC）は、今年始めに棄却した経済特区に係る法案を、修正を経て採択した。（13日付エクスプレス紙）

【経済協力】

1 日本との関係

●平成29年度対マダガスカル草の根・人間の安全保障無償資金協力「アンツィラナナ市ベタイチ小学校増設計画」引渡式

9日、日本政府による平成29年度対マダガスカル草の根・人間の安全保障無償資金協力「アンツィラナナ市ベタイチ小学校増設計画」の引き渡し式が開催され、日本側からは小笠原大使、マダガスカル政府代表（保健大臣）他、学校関係者及び父兄等関係者約30名が出席した。（10日付当地各紙）

●平成29年度対マダガスカル草の根・人間の安全保障無償資金協力「アンツィラナナ大学病院新病棟建設計画」引渡式

9日、日本政府による平成29年度対マダガスカル草の根・人間の安全保障無償資金協力「アンツィラナナ大学病院新病棟建設計画」の引き渡し式が開催され、日本側からは小笠原大使、マダガスカル政府代表（保健大臣）の他、政府・地元自治体代表約60名、地元保健・病院関係者約230名、医療関係大学生・技術専学校生約290名等約750名が参加した。（10日付当地各紙）

●佐藤正久外務副大臣の当地訪問

20日、佐藤正久外務副大臣と小笠原一郎日本国大使は、大統領府において、ラジャオナリマンピアニナ大統領と会談し、南部の飲料水へのアクセス、2025年国際博覧会を

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願いたします。

含む日本・マダガスカル協力強化について主に協議した。佐藤副大臣は、ドゥヴ外務大臣とも会談し、二国間関係、地域情勢や国際場裡の課題にかかる意見交換を行った。(21日及び22日付当地各紙)

●平成30年度対マダガスカルABEイニシアティブ第5パッジ合格者壮行会

22日、日本大使公邸において、日本政府による平成30年度ABEイニシアティブ第5パッジ合格者5名(マダガスカル4名、コモロ1名)に対する壮行会が開催され、小笠原日本大使、マダガスカル政府当局関係者等約40名が参加した。(23日付当地各紙)

●平成28年度補正予算案件「マダガスカル南部干ばつ発生地域緊急人道支援・復興ジョイント・プロジェクト」引渡式

12日、国連とマダガスカル大統領府の主催により、南部アンドロイ県のアンボヴォンベ市において、日本政府が供与に参加する「マダガスカル南部干ばつ発生地域緊急人道支援・復興ジョイント・プロジェクト」引渡式が開催され、日本側からは小笠原日本大使、マダガスカル政府側からはラジャオナリマンピアニナ大統領、ンツァイ首相、各省大臣6名、又、カキョムヤ当地国連常駐調整官、オナバンジョ国連人口基金(UNFPA)東南アフリカ地域代表他国連関係者が多数参加すると共に、アンボヴォンベ市民約3500人が参集した。(13日付当地各紙)

2 諸外国・機関との関係

●EUによる支援

2日、EUは、「マダガスカル国家公共機関の強化に係る協定」に対し、13百万ユーロを供与した。(4日付当地各紙)

●中国による「卵の道」着工式の開催

13日、中国による鶏卵の産地マイツィ市、アンパヌトゥカナ市及びマアザザ市と首都アンタナナリボ北西を結ぶ19.25kmの道路「卵の道」の修復工事が開始され、着工式にラジャオナリマンピアニナ大統領、楊中国大使及び公共事業・インフラ大臣が出席した。(14日付当地各紙)

●中国による国道5号線の修復工事の開始

16日、北部アンビルベにおいて、同地域と北東部イハラナを結ぶ国道5号線の修復工事の着工式が行われ、ラジャオナリマンピアニナ大統領が出席した。同事業は、2年間にわたる150,710kmのアスファルト舗装工事で、中国による155百万米ドルの借款で、償還期間20年、据え置き7年間で、CRBC社が請け負い、2020年に完成予定である。(17日付当地各紙)

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

●中国による南部の井戸200か所の建設の開始

17日、南部メナベ県ムルンダヴァ郡ベマヌンガ市において、井戸200か所の建設事業の着工式が開催され、ラジャオナリマンピアニナ大統領及び楊中国大使が出席した。同事業は、水・浄化・衛生省の管轄の下、中国企業China Jiangxi International Economic及びTechnical Cooperationが請け負い、中国政府による資金供与4.1百万米ドルで行われる。(18日付当地各紙)

●中国によるムナベ県庁舎への備品の供与

16日、楊中国大使は、火事で損害を受けたムナベ県及びムルンダヴァ県の庁舎に、パソコン4台、プリンター4台、デジタルカメラ1台及びUSBキー10個を供与した。(21日付ミディ紙、ヌーベル紙及び27日付マラザ紙)

●中国による選挙支援

21日、楊中国大使は、独立国家選挙委員会(CENI)事務所において、ラクトマナナCENI委員長と会談した。同会談において、同大使は、自由で民主的な選挙の実施のために、CENIに選挙に係る備品を供与する考えを示した。(22日付ヌーベル紙及びマラザ紙)

●カナダの研究所による協力

23日、アンパサピトゥ高等技術研究所は、ケベック大学高等技術研究所と高等技術研修に係る覚書に署名し、今後2,500名のマダガスカル人に研修を受ける機会が与えられる。(24日付エクスプレス紙)

●孔子学院の奨学生71名が中国へ

28日、アンタナナリボ大学の孔子学院の学生82名が卒業式を迎え、そのうち32名が中国の6大学で学ぶための奨学金を獲得し、数名は8月下旬か9月初旬に中国に向けて出発する予定である。フィアナランツァ大学及びチュレアル大学の2年生39名も同奨学金を獲得し、2018年は合計71名のマダガスカル人奨学生が中国へ出発する。(29日付マラザ紙)

●独による汚職対策に係る支援

28日、独国際協力公社(GIZ)は、独立汚職防止局(BIANCO)と汚職対策に係る覚書に署名し、25万ユーロを供与した。(29日付ミディ紙他)

●EUによる教員能力強化に係る支援

(注)「マダガスカル共和国月報」は、現地新聞報道を当館限りでまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にマダガスカル政府の公式見解と異なる内容が見られる場合もあるため、予めご留意願います。

EUは、マダガスカル人の教員の能力強化に係る支援プログラム（PERFORM）に係る供与76.4万ユーロを行った。（9月1日付ミディ紙他）

●マダガスカル奨学生29名が中国へ

30日、中国大使館において、楊中国大使及び高等教育・科学研究省局長の出席の下、マダガスカル人学生29名の中国留学のための出発式が開催され、航空券の贈呈が行われた。同奨学金供与は、マダガスカル国費留学生委員会（Conabex）と中国大使館のパートナー協力によるものである。（31日付ミディ紙及びシトワイヤン紙）